

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

昨年10月に開催されたテュルク諸国機構(OTS)首脳会議第二の成果は、軍事・防衛分野です。防衛協力は、新段階に正式に入りました。アゼルバイジャンのアリエフ大統領は、全加盟国による合同軍事演習の実施を正式提

案し、既に2国での共同訓練は多数行われているものの、この動きは統一された「トルク(トルコ)系の防衛・対応能力」確立に目標を移行させました。また各国首脳は防衛産業の連携強化を協議し、特にトルコ製無人機(ドローン)技術の中央アジア地域への普及に焦点を当てま

日本への期待 世界各地から

其

160

続「OTS+」の成果

した。

第三の成果は、デジタル・経済イノベーションに関するものです。首脳会議では複数の将来を見据えた機関が導入されました。サイバー脅威や情報戦に対する共同防衛を調整するサイバーセキュリティ評議会はカザフスタンのトカエフ大統領により提案されました。人工知能(AI)を重点分野とし関連諸国全体のスタートアップとベンチャーキヤピタルを支援するデジタルイノベーションセンターの設立が承認されました。またウ

カザフスタンから(下)

ズベキスタンのミルシヨエフ大統領は、トルク系投資基金プロジェクトを加速させるため、タシケントに本部を置く恒久的な経済パートナーシップ評議会の設立を提案しました。

第四の成果は、文化的・言語的統一に関するものです。共通トルク文字として、34文字のラテン文字ベースの共通アルファベット公式採用に向けて、大きな進展がありました。加盟国は新文字体系を反映するため、各国の教育制度を調和させることに合意し

ました。トルクメニスタンはトルク語アカデミーおよび文化遺産財団のオブザーバー国となり、OTS完全加盟に向けた動きを示しました。さらに観光振興のため「テュルク系共同博物館カード」が導入され、加盟国民はひとつのパスで連合域内の文化遺産施設が訪問可能となりました。

第五の成果は、輸送と「中央回廊」に関するものです。中央回廊(別称カスピ海横断ルート)が優先的物流動脈として再確認されました。カザフスタンは、トルコ経由で中国・中央アジア・欧州間を移動する貨物をリアルタイムで追跡する「デジタル監視センター」の設置を提案。中国・キルギスタン・ウズベキスタン鉄道に関する最終合意が成立し、トルク世界東西部間の効果的な連結を実現しようとしています。

以上から要約すると、昨年10月に「トゥーラン」構想は象徴的な理念から制度的現実へと移行したといえます。焦点は安全保障、デジタル面での自律性、経済的自立へと変

遷し、テュルク系諸国は東の中国と西のEU・米国の間に位置する統一ブロックとして位置づけられたといえるでしょう。

3回にわたり、わがカザフスタンを中心に中央アジアの現状を、政治・経済・文化の面から紹介してきました。私自身、これまで数年間カザフスタンの経営コンサルタント協会の代表を務めて来ましたが、昨年、カザフスタン公認経営コンサルタント協会を中央アジア経営コンサルタント協会と名称変更したことを追記させていただきます。

【グルスム・アハタンベルディエフ、リーム中産連】

(月曜日に掲載)